

やりたいと思ったことを全力で支えてくれる

H. Y.

中央大学 商学部 会計学科 進学
水戸市立 国田義務教育学校 卒業

茨中・茨高は中学3年次で高校の範囲を先んじて学習するので、教科によっては早い段階で高校の範囲の履修が終わり、各々の試験へ向けた勉強に十分に対策できる時間ができます。また、その進度の早さから深く理解ができていない部分が出てくることもありました。しかし、茨中・茨高には放課後に課外授業が設けられていて、その内容も生徒のレベルに合わせて基礎的なものから難関大学レベルのものまであり、それらの課外を活用することで着実に自分にあったペースで勉強を進めていくことができたと思います。また受験期では、私の入試ではグループディスカッションが課さる特殊な試験だったのですが、先生や同級生に時事問題を議題とした面接練習を何度もしていただけたことで、自信を持って試験に臨むことができました。

私は中学・高校の6年間、吹奏楽部に所属していました。入部のきっかけは姉の影響で、当初は何となく始めた部活動でした。しかし、大会に向けて日々練習を重ね、部員たちと切磋琢磨しながら成長していく中で、いつしか部活動は私の学校生活の大きな柱となっていました。特に印象に残っているのは、高校2年次の夏の大会です。この年、私は副部長を任されただけでなく、これまで経験したことのない楽器を担当することになりました。部を運営する立場になったことで、それまでとは異なる視点から部活動に向き合う必要があり、当初は戸惑うことも多くありました。さらに、大会まで半年もない中で、演奏面では右も左も分からない状態の楽器に取り組まなければならない、自分の理想とする演奏のイメージに技術が追いつかないことに大きな悩みを感じました。そこで私は、部員や顧問の先生だけでなく、家族や外部講師の方々など、頼れる人には積極的に助言を求めました。そして、いただいたアドバイスをもとに自分なりに工夫を重ね、練習を続けることで少しずつ課題を克服していきました。その結果、困難に直面しても周囲の力を借りながら主体的に努力し、乗り越える力を身につけることができました。この経験で培った力は、受験において私を支えてくれる最も大きな柱となりました。

茨中・茨高の良いところは、やりたいと思ったことを全力で支えてくれる点だと思います。勉強では授業だけでなく非常に高いレベルの課外も設定されているので、上を目指す生徒にとって非常に良い学習環境が揃っています。通常の勉強だけでなく、国際教養コースで留学を経験したり、医学コースを選択して医療の道を目指す事もできます。また茨中・茨高は、様々な学校と提携を結んでいるので高校の学びを超えた経験を積むこともでき、新たな視野を獲得できる点が他にはない良いところであると私は考えます。

大学進学後には公認会計士資格の取得を目指しながら、地域社会の現状について学びたいと考えています。将来は大学で学んだ技能を活かして自身の育った地域社会に貢献できるよう頑張っていきたいです。